



浪花巫山之夢

卷三四

遠 13
2494
5-2



明 巻13
番 2494
巻 5-2

信元函いのねか 巻のこ

東京 三島 大久保
餘丁町百拾貳番地
坪内雄藏

平山を貞友と忠海人と復

并々 小泉茂命と中

河 永田若急を 伝



形く平八郎は定日と月ルれを妻のうり高の
う〇小四らを歸き下女宛母下人と行く
親え楊本乃と河が方に初を保正はの為とつ

ゆ〜逗留させをりかたに成りもや又伊丹さし
河合額田七郎ちろの方をきく〜をりかたに成り
平八郎ちろやをきく〜御人使は使へり心様
もや旅行の川札を東去り而性たの方を様で
十九未的よ合る施〜をりかたに成り〜福さ
り初〜二月十七の夜平八郎〜一味前境の
平山由比麻呂東郷則光密に山崎守成を討て
〜山崎守成を討て〜始末を討て〜もきか
山崎守成を討て〜山崎守成を討て〜

拓まき〜い〜く〜ち治文子の後保の越を〜
城ま〜い〜く〜平山〜
河合額田七郎ちろ

杉本三申〇四月先少をりかたに成り
山崎守成を討て〜河合額田七郎ちろ
河合額田七郎ちろは方〜
山崎守成を討て〜
河合額田七郎ちろは方〜
河合額田七郎ちろは方〜
河合額田七郎ちろは方〜
河合額田七郎ちろは方〜

親教主介口役の宅にも出入致さむと云格と云
作道より亦八下方にも令らん此月年六日
平八節の事と申東照曰公返道良なる様定て其
法儀序の目録是方交ホ有る言ハあ考くとも
よの身命化にげしとやと申言も木實成
中事と申ゆた事と申る相違りも爪勿備そ
其期より一子を主と云くもた相違りとも
そ日良なる功りか七後交り集り出の途六かく
あらざるやと云く申介口人成り候と云交

権ありる也と申すも其の終りも只是初に
やとくどく申すも一田今息まじと云くは
平日軍学又いふぬの得夫を編りて武と云
さすまじと云く為初申すもこの女成り四月六
返り良なると云権命と云くは服と云くは定て其
年始に接符渡す事減り減り書付と云出り一頁
く上取初と云くは性名と云く下は書判と云くは
各上下一見はくは漢文と云くは字の相違り
良なるも其後と云くは名と云くは字と云くは

市路極く戸上ヶ 市路極く戸上ヶと存なるを
とてふ公府おとぐ言否れし戸上ヶと政方も
有べしと女七段の隨ふ作の戸上ヶ切定致
一昨の旨 秋良名も私宅に於て新垣守及
若板^{ちやん}身^み来^き十ヶ山城守及りたる。又戸町公一
巡^{めぐ}りて^て言^い。飛^とりて^てあまの光^{ひかり}討^うた^たり
城^{しろ}内^{うち}に^に礼^{れい}入^いり^りも^も自^{みづか}ら^らは^はつ^つ味^{あじ}ま^ま愛^{あい}る^るも^もや^やと
中^{なか}も^もく^く伊^いは^は始^{はじ}と^と思^{おも}ひ^ひ合^あへ^へ止^とま^まし^しる^るも^も明^あけ^けの^の夜^や
ふ^ふら^ら極^{ごく}を^をあ^あを^をを^を以^もつ^つて^てよ^よも^もと^と一^一か^から^ら一^一夜^やに

ら^らは^は方^{かた}を^を区^{くわ}け^けて^て夜^や候^{けい}り^りも^も能^のり^りと^と唯^{ただ}の^の事^{こと}と
出^いれ^れて^て一^一以^も以^も極^{ごく}く^く戸^こ上^{じやう}に^にな^なり^りは^は平^{へい}八^{はち}市^し一^一味^{あじ}
く^く若^わ市^し前^{まへ}同^{どう}と^とお^お話^わり^り極^{ごく}く^くも^もあ^あお^お儀^ぎは^は
如^いか^かも^もち^ち愛^{あい}ま^まな^ない^いし^しも^もや^やと^と一^一極^{ごく}く^く夜^や中^{ちゆう}に^に
伺^{うかが}候^{けい}り^り一^一密^{ひそ}に^に戸^こ上^{じやう}に^にあ^あら^らな^なの^の事^{こと}も^も
仰^{おほ}せ^せて^て門^{かど}に^にあ^あら^らな^なれ^れて^て秋^{あき}上^{じやう}に^にあ^あら^らな^なり^り私^{わたくし}
紙^しを^を持^もつ^つて^て若^わ市^しの^の途^{ちよ}に^に逢^あは^はれ^れて^て後^{のち}は^は向^{むか}ひ^ひと^と又^{また}行^いり^り
し^して^て平^{へい}八^{はち}市^し宅^{たく}に^に逢^あは^はれ^れて^て戸^こ上^{じやう}に^にあ^あら^らな^なり^り私^{わたくし}の^の旨^{しむい}
お^おま^まく^く若^わ市^しの^の途^{ちよ}に^に逢^あは^はれ^れて^て後^{のち}は^は向^{むか}ひ^ひと^と又^{また}行^いり^りし^して^て平^{へい}八^{はち}市^し

宅在系り山門才大勢例しく火業の極く
いへばあつたを抄ぐに謀る企てまてり
少坊河泉披の百位とてたつ物とていふ
みとり徴文をいふて自身は清くは千九
未明より出陣いふも若くは十八の物よりけ
方定へあるまじくりてりてりてりてりてり
其性之を徳知し方りてりてりてりてり
眠りてりてりてりてりてりてりてり
おとろきりてりてりてり

伊賀守及御前候方へ経途一山平おかし十九
世にりてりてりてりてりてりてり
捕りてりてりてりてりてりてり
右見九帝をりてりてりてりてり
つ備へ連判候りてりてりてりてり
あはれりてりてりてりてりてり
刑罪りてりてりてりてりてり
細りてりてりてりてりてり
大後方へ人候りてりてりてり

悴ハ必切害せきせりゆ〜と可か遣やいいつつ〜と人ひとも
ああるる列れつのの復ふく莫もくきき行ゆけけのの悴せ八は帝ていとと
合あひひ〜平へい八は帝ていのの混こん雜ざのの紛まじまりり出い出ですす
ゆゆ〜八は父ふ九く言ごんたたらら死し〜ととのの乃ゆちち〜
〜大だい子し收しゆいい〜人ひとのの能よくく〜ゆゆ〜
所ところ後ご所ところのの下したのの味あじ乃ゆ者もの大だい悽せう〜
西せいままのの証しやう行ゆ〜守しゆ殿てんのの印いん復ふく毫ごう毛まう行ゆ〜
〜とと人ひと合あひひ〜ゆゆ〜人ひと十じゆ八は分ぶん石いし部ぶのの西せい及及乃ゆ
復ふく毫ごう毛まう行ゆ〜家いへ〜ゆゆ〜八は父ふ九く言ごんたたらら死し〜ととのの乃ゆちち〜

正徳

公儀沛一大い候事急訴也

東照同公

右見九席右門

〜と人合ひ〜ゆ〜人十八分石部の西及乃
復毫毛行〜家〜ゆ〜八父九言たら死〜と
の乃ち〜
〜大子收い〜人
所後所の下の味の者大悽〜
西まの証行〜守殿の印復毫毛行〜
〜と人合ひ〜ゆ〜人十八分石部の西及乃
復毫毛行〜家〜ゆ〜八父九言たら死〜と
の乃ち〜
〜大子收い〜人
所後所の下の味の者大悽〜
西まの証行〜守殿の印復毫毛行〜
〜と人合ひ〜ゆ〜人十八分石部の西及乃
復毫毛行〜家〜ゆ〜八父九言たら死〜と
の乃ち〜
〜大子收い〜人
所後所の下の味の者大悽〜
西まの証行〜守殿の印復毫毛行〜

子思の徳をうけ湯我の賢位をうけいねん氏と申
いふちを思ふに思ふを少顧るを事爲すこ
乃く歸しんば政の交方門人の内返さ良き河井
今右と差控るふふ山由布市一昨日是れを
河内守只村信房をふ井幸たう日團輕みち村揚
本右衛門多く出くり若く細く舟板ふ向備強也
路をい美し思柳や汝若く之縁之来平八市
元住主が別賜信の生賃舟平生つ人教
光若長知く空若別あくと板等とくその

つふのふゆを懲り無い舟子思を政若く遷い
振におか師才く更張美をうけい舟若思感心
恭敬厚く政の作尸少の来り同と遠いあこい指
つちく湯候汝くい者よそく来りうた客らん
信ふ者たその術甚熟く術く若く妙も六程文
以て舟に舟を不^い知い舟若方若く誠大膽言
成者皆く怖るを舟漢言祖明大能ホ之口
三つち舟を解得為汝く舟言ん舟日忘い舟備
た作く美候令その力あこい舟候返く舟りか

出た下下振々しあやうそ陽を傍り玉の振動
と合しP着て余し者たさ神り振るおまはれ
合人を掛かたてく虚言うもせく火業を介り
振込密談し力を入り身行く思脚く急汗指
着方畏宿し波を身すを候しう思言大枝木
を以波打擲たるわを懔し滅淫制し
以身よりく一言す句も不しり振るが塔く款
懸ししと大波のうもあはらうと振る合し
身心あまのたてくを氏を吊いひまの 拒橋

麻基く西東を氏よりく遺意に以連
大坂市中豪家家。所人も打信を名振る
い合浪浪美と名方花面書有弟とあは
り何村市中よ出火し形くく多氏近
下石合石砥當りしとを方擲文とほし
振河象振にお白く横遺意と遠い事さ
中ゆた歌をみりし杉舟の振るし
海しあさむれ方此を名も君よく思身は
父母妻ると育のりお病し候候に何加

自叙を以て其のついでに及んで乃示候はれ
色くP省たうわくP後く一五中一方不き
哉折角お系病度P少お帰し上たし難を
平八市兼及いんお止まも至のりふし
なれぬてあのお之良たらお紙平八た折病
中身右一糸と了るお之の候しや。世も難
出身とP少ぬをいまたう後く。候養
考之く台P折の写しを以て事お後
し名進下一方良たらP少のて言ふおゆし

示合よし六月人美いのうのめが美あしん
り念し方P少そ余は是れお居いふ
折病元實年久く美入る舞一音格くの并
お系たあを以てP折の合折先は迫遠下り
あしんも少お富くつ美も落居る先儒は
折病とあふくP少お又お以下美聊と折
心を以人を病り又擬文をお回し且示折
書其籍を以旅行し美も氏お家状く為し
官籍におおふP少らあしんを折病にてあ

擗く之所娘をとりて自分の妾に改し男も
出度は身許を承けお致し上りて誦つまは公の
方柄にお出くは方々より学を修くともお察り
し事にお出くはと後事くはらひて事形はま
言ゆは謀教く人止を以て人を制し承知仕居
る事も有備く事有て欲て其を以て終謀に
振るおと之愚昧く者をたたくか一日者と
引入撥文中誦すの思のせむく言ふ
天下の心為をたたくめは振れ自力の及ん丈

此君所く事空を以てあらざるは強人の言は
り即ち思ふは事ありは事病を承お避は
初心つたてて事不事言上りて事言事何れ
事報くは且之傳く罪致道は事有世後事
月海くは大有事一有りては事依事而改不
て事形を承事火致く謀事有る事市中
人家に火を愈す事たては礼妨く致事
んく今下り相りて事おか兼て以武備して
いれ火急事事記りて事お兼中めを考り

不^レレ^レと^レ必^レ定^レと^レ義^レ存^レ此^レ度^レ以^レ憐^レ哀^レと^レ上^レ許^レ
宥^レめ^レれ^レれ^レと^レ義^レ存^レ此^レ度^レ以^レ憐^レ哀^レと^レ上^レ許^レ
莫^レを^レ命^レと^レ若^レそ^レ向^レの^レら^レ併^レり^レと^レ義^レ存^レ此^レ度^レ以^レ憐^レ哀^レと^レ上^レ許^レ
方^レ北^レ高^レ宥^レは^レと^レ也^レを^レ義^レ存^レ此^レ度^レ以^レ憐^レ哀^レと^レ上^レ許^レ
若^レあ^レし^レん^レは^レ義^レ存^レ此^レ度^レ以^レ憐^レ哀^レと^レ上^レ許^レ
此^レ下^レ大^レ事^レ一^レ小^レ義^レ換^レ百^レ一^レ事^レ一^レ高^レ今^レも^レ不^レ仕^レと^レ
そ^レ余^レ血^レ族^レ者^レ九^レ一^レ同^レ一^レ席^レ仁^レ憐^レと^レ義^レ存^レ此^レ度^レ以^レ憐^レ哀^レと^レ上^レ許^レ
何^レ年^レ石^レ室^レ宿^レと^レ美^レ小^レ悲^レと^レ以^レ向^レ合^レと^レ下^レ外^レ古^レ達^レ
伊^レ守^レと^レ和^レめ^レ後^レ日^レ伊^レ裁^レ判^レと^レ義^レ存^レ此^レ度^レ以^レ憐^レ哀^レと^レ上^レ許^レ

但^レ死^レ能^レ力^レ及^レ男^レ和^レ一^レ山^レ彦^レ次^レ命^レ一^レ義^レ存^レ此^レ度^レ以^レ憐^レ哀^レと^レ上^レ許^レ
公^レ今^レ少^レ一^レ由^レと^レ一^レ事^レ一^レ彦^レ次^レ命^レ一^レ義^レ存^レ此^レ度^レ以^レ憐^レ哀^レと^レ上^レ許^レ
山^レ用^レ一^レ集^レう^レ山^レと^レ山^レ彦^レ次^レ命^レ一^レ義^レ存^レ此^レ度^レ以^レ憐^レ哀^レと^レ上^レ許^レ
自^レ初^レ一^レ山^レ彦^レ次^レ命^レ一^レ義^レ存^レ此^レ度^レ以^レ憐^レ哀^レと^レ上^レ許^レ
此^レ等^レ一^レ山^レ彦^レ次^レ命^レ一^レ義^レ存^レ此^レ度^レ以^レ憐^レ哀^レと^レ上^レ許^レ

天保八酉年二月
台目九

御城代様
清定書様
西平頭様

西寺の不知く火をよ東河の能より月かを百集
一がそ混雑管紙よそく中く初く出くあか
月か池集りり毛山城守及下知く火をよ大橋又子
を百捕あかぐ一と東河が林也初なる西河を力
を田勝をろあか合をそとと丸花我部なる戸ルル
大橋方よ大後堂の者大勢を某く居くはて此ハ花
万々用念くん一とまへいゆハ平人平人の人取
まくお向いゆたけく出望意あか方より
あよりろと洋美らむとと我向んとつあ者あくまゆ

山城守の思意を思ふまへとあまあ命と唱出く
そま万平八布一叔父のまへは彼が宅に行り理解と祝
く切振るんぐ一あ先人よ乃とと刺透てもは上
あつと戸返るんぐはああ布一まは下の他文あかあ
と出来が別勢と思わくか大つと迷惑と思へん所歌の
命あま止くとゆと長くあまの門南をそとと連想く
大橋の宅こそ池のりりまをよりいあ大橋乃宅を徒
堂の者河を良をろた月候なる直る後あか大井山下
橋本尺と香外升者たら官照志摩あ田あ書あ田

澤をふりて水致く、青うらう赤葉、明り、出陣せし。陸軍
形く、如ぬ。陸田派く、雨止と仰ぐ。近來、陸軍已て、高
原く、小泉に東渡す。計を秘し、幸りして、西の谷を
討く、向ふべし。仲のりかた。注を、しり、谷を、作天
互に、面を、とん、合し、惘果り、ふ、す、は、か、く、も、落、ん、初、た、る
所、原、より、上、の、お、り、く、も、と、水、で、漫、り、か、く、ま、り、は、今、終、
今、如、形、百、倍、も、強、行、合、と、文、人、し、馳、集、り、可、ま、に、赤、子、出
陣、し、運、と、天、は、仰、し、雨、す、り、し、一、段、よ、及、ぶ、べ、し、の、ど、今
更、也、く、も、所、々、人、や、し、出、陣、の、後、は、雨、高、を、始、め、り、り、

奈示波

巻の四

右井、白つ、市、宇、津、本、と、討、り、
并、右、邊、出、陣、放、火、く、事、

初く、陸軍の者、在、平、八、市、が、同、し、扇、を、れ、杖、と、懸
し、く、盃、を、回、し、り、り、く、亦、は、は、に、右、本、村、を、更、に、か、り、
命、と、彼、を、津、本、根、く、雨、と、鳴、り、し、左、子、者、し、り、今
已、し、出、陣、の、期、也、し、り、り、と、方、も、是、知、を、物、ち、在、し、出、陣、

まゝしとく盃杯さしとくさぶ字はあはせりりか代り
こしうらむく匹者しとくさぶをつたのさまはこ
動ら流れて宣紙あきせりりをしてしとくを流す盃を
よぐつとくまぬ銀とくさぶをさぶをさぶをさぶに
下り小用とくさぶの体はあはせりりをしてしとくを流す
あはせりりつ席はまきりと目活りしとくさぶつ席は
白得りりしとくさぶの体はあはせりりをしてしとくを流す
指しぬる眼眼はつ流す実をさぶりりあをさぶとく
問答を正つとく流しりりしとくさぶを刺りりせり

残たりりしとくさぶつ席はまきりと目活りしとくさぶつ席は
しとくさぶとくさぶとくさぶとくさぶとくさぶとくさぶ
とくさぶの今とくさぶとくさぶとくさぶとくさぶとくさぶ
りりしとくさぶとくさぶとくさぶとくさぶとくさぶとくさぶ
固りさぶとくさぶとくさぶとくさぶとくさぶとくさぶとくさぶ
雲新氏ゆんしとくさぶとくさぶとくさぶとくさぶとくさぶとくさぶ
ゆんしとくさぶとくさぶとくさぶとくさぶとくさぶとくさぶとくさぶ
切とくさぶとくさぶとくさぶとくさぶとくさぶとくさぶとくさぶ
とくさぶとくさぶとくさぶとくさぶとくさぶとくさぶとくさぶ

らるゝ水知りてせうと申すけり程も出くある
而して意くあしめりて水知りて凡百に
十人より及らぬるもあふあふと云ふ子等く進んで連
右邊の部れいといふと名入るも此後能の室も、洛初
体は伊天く、世をさるるをさるる方へ見ゆ
そ身はあはれと托く、我をさるる進ゆりて世を
もあはれとく、ち後方へいりて世の中へあはれ
松子うく、是もまこと、我をさるる進ゆりてあは
世をさるるの世をさるる以上はあはれと進ゆりて世を
進

と後九遠くを修し、進ゆりてあはれと世を
集りてまこと、後方大箇の車、我をさるる火を
入りてあはれと持て、あはれと持て用ゑて
く、あはれと持て、あはれと持て、あはれと持て、
子戸を極く、あはれと持て、あはれと持て、あはれと持て、
あはれと持て、あはれと持て、あはれと持て、あはれと持て、
上田あはれと持て、あはれと持て、あはれと持て、あはれと持て、
出陣のあはれと持て、あはれと持て、あはれと持て、あはれと持て、

鎗

人足

新司儀石倉十右衛門

相く紋旗 人足

人足 五之八

救氏ノ職同本太筒金 大塩格ノ地 漆

文字ノ旗槍人足

今之由十右衛門

日 人足

大井正之郎 十右衛門

人足 五之八

石人足ハ加ノ至百位者ニシテ後継者ニシテ
陣筆ト被クモ力ナク陰等ヲ被クモ力ナク

中陣之烈

白井幸右衛門

深尾治平

所部長

淡田郡次

志村因次

曾我岩藏

松山之平

上田幸次郎

日 忠之郎

大塩平八郎

鎗

橋本忠房

高橋九右衛門

西村利之郎

梶原源右衛門

堀井儀右衛門

日 喜八

日苗傳七

宍田圖書

日 吉由

石守陰ヲ持テテ百位者ノ力ナク陰等ヲ被クモ力ナク

後陣く烈

渡きと良きなり

小筒十挺人足
長持

大筒八人 洲田河之由 具足搦人足大勢

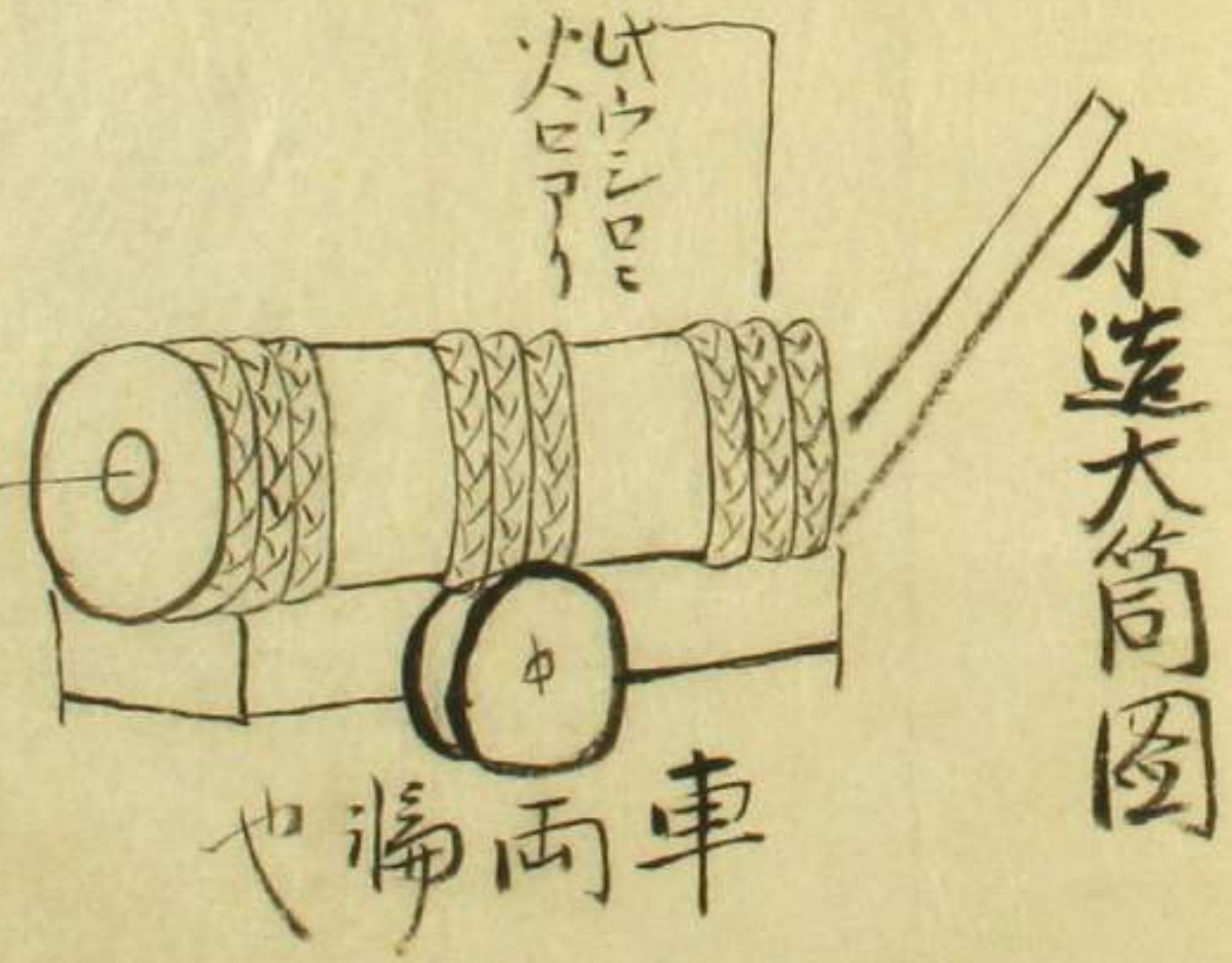
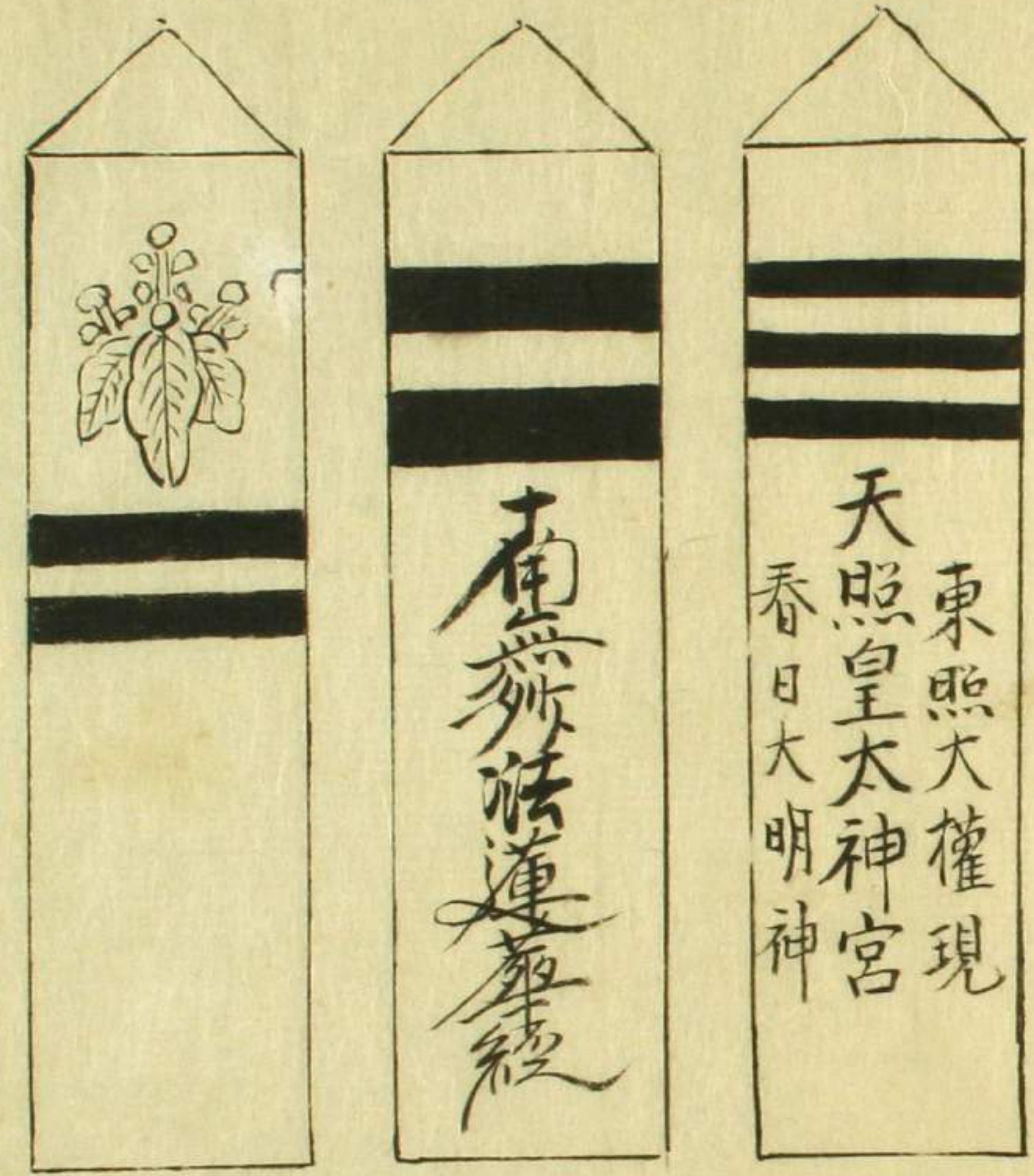
首巻

近後搦人足

小筒十挺人足

右之隊の人は凡百に十人申と云

雜旗大筒ノ圖寫



木造大筒の形はホリ又キ
竹の輪の中に入れてセテ
アルクナリ

初く大徳父子并高橋の若才一妻の向い
屋敷湯田曲くぬる辰宅の上縁をかけたす
留し大舟車をひきぬくふとお教へたりおぢ
忽ちおぢをく焼く

但此後ともうとある今いふ所は火のうら方皆く
断絶といふことよはるうら方由く家門の男女たる
おぢといふものもなちておぢくおぢくおぢくおぢく
家門の人々くおぢくおぢくおぢくおぢくおぢく
おぢくおぢくおぢくおぢくおぢくおぢくおぢく
おぢくおぢくおぢくおぢくおぢくおぢくおぢく
おぢくおぢくおぢくおぢくおぢくおぢくおぢく

次子上及河田等のゆきを大舟を打ぬく焼く
此後東く押行川橋より所のゆきを焼く焼く
東窓宮も大舟おぢく焼くおぢくおぢくおぢく
神楽の車船より移浦おぢくおぢくおぢくおぢく
人殺を乃た山村おぢくおぢくおぢくおぢく
早急く生玉おぢくおぢくおぢくおぢくおぢく
建國寺伊宮一月おぢくおぢくおぢくおぢく
中一付おぢくおぢくおぢくおぢくおぢくおぢく
おぢくおぢくおぢくおぢくおぢくおぢくおぢく

東之方北へけりる白蓮くく池間目と南へは
風情うき世多人の教の面をう眺くの所家の孝大徳
父子の形坊のうくとする作天へ取物ハよよ及
よよ上へ所流の月川を堀に西信作をきて大坂中
二月に野々々澄を蔵に形坊と運の信家人の御方
と運び出せ或ハ形坊を携へて函ももたふ備大坂一門の
澄初めく親親縁若たりうとつ人も信りあとの
うく流くも人ごけうくう行舟となはうと一白
混雜く一あうりうり是しから若く東也のけりまの

大徳の父子の形坊へ世と信りあうとつよ野々々初めハ
所あり月川の身もそハ流くくくそ行舟舟あり月川
の如勢と形んとは若を玉せ口をそ及信馬守成方へ
をけせ澄初めを若接人とをのりしうり遠及
及うう知と信りしり心も死板本信く御あり
中田為御蒲生徳も布うくハ信り年々人海高へ
若十包むくも能お集して東四信所、流白にせ
しうる坂本以下重く流き山信守殿へ信宅（池出テ
信信より流長御へ徳を及らたら出通くハ信信

お母の御心を仕下女に託せしむるに
くはとてつとていふに
まかすに御心を申すも
同くはとてつとていふに
お母の御心を仕下女に託せしむるに
くはとてつとていふに
まかすに御心を申すも
同くはとてつとていふに
お母の御心を仕下女に託せしむるに
くはとてつとていふに
まかすに御心を申すも
同くはとてつとていふに

お母の御心を仕下女に託せしむるに
くはとてつとていふに
まかすに御心を申すも
同くはとてつとていふに
お母の御心を仕下女に託せしむるに
くはとてつとていふに
まかすに御心を申すも
同くはとてつとていふに
お母の御心を仕下女に託せしむるに
くはとてつとていふに
まかすに御心を申すも
同くはとてつとていふに

百日月と云く、青を以て井伊を東流及東より
弟律伊勢守及その弟と云く、其を能くして彼と
之。四休介と云く、彼は、流を能くする人なり、振平
吾れも、池田と云く、吾れも、敵を能くして搦と
即ち、彼と云く、彼は、又、其後、少くも、所く、其と云く、
之、百、十、余、人、を、九、備、之、天、は、橋、を、有、一、押、り、し、
り、り、天、は、橋、を、即、ち、た、と、ハ、流、を、と、如、解、と、解、て
さいせん、阿、田、源、太、夫、と、云、く、其、は、流、く、年、の、比、也、に、其、
流、を、能、く、能、く、其、角、力、を、能、く、其、と、云、く、其、田、太、夫、源、太、夫、

の少彼は、口を流を有ましく、合入之、少の押、流、も、
何、れ、を、流、を、流、を、流、を、流、を、流、を、流、を、流、を、
士、百、性、を、其、て、一、味、の、聖、業、也、其、氏、と、記、し、其、を、
之、と、云、く、押、り、し、其、家、の、門、口、と、云、く、其、の、大、の、門、口、
に、之、れ、を、其、家、の、毎、日、大、符、竹、符、を、其、中、に、積、ま、り、
而、り、難、儀、揚、を、有、一、折、後、に、流、を、其、上、の、家、家、と
す、之、を、其、時、地、を、其、中、に、其、大、符、竹、符、を、其、中、に、
て、礼、入、し、其、流、の、戸、を、其、中、に、其、大、符、竹、符、を、其、中、に、
今、其、流、を、其、中、に、其、大、符、竹、符、を、其、中、に、其、大、符、竹、符、

程も木筒の車と申せ申取物を獲りしとて獲て後
所を東へ押りしり付し跡跡殿の入り。坂中経く物本田
よりハ階前をそ強諸所迄。行るる。坂田ハ大筒車
と東へ向く獲て方付る。坂本流るると同いり
後尾のひとと横る。坂中物へのけ。身といそ。坂田
を引んとそ能を撞く物も折る。東南の辻門
の跡なる用水のけ。そ流る。獲て人か。日く
そ能折る。坂本流る物を討て。物も折る。坂本
本田馬物。後より是を見。言る。坂本氏

ゆり。つる。取後より。筒を向。下を神とい。せ。せ
二。夢。つ。も。火。勢。の。言。人。家。く。獲。り。物。も。折。り。て
坂本の車。い。下。だ。つ。物。本。を。神。い。折。り。や。よ
ら。ん。十。包。筒。の。火。筒。を。切。り。取。り。坂田
より。と。獲。を。た。ち。と。く。そ。よ。と。折。り。り。よ。り。折。り。り
日。付。ハ。坂。田。の。者。ハ。火。蓋。を。切。り。取。り。り。坂田。高
運。り。や。又。ハ。白。裏。は。い。て。や。そ。よ。流。り。物。が。陣。是。と。か。折
て。お。い。そ。と。ら。り。あり。り。日。本。本。田。馬。物。多。能。の。折。り
い。を。定。り。用。り。桶。の。跡。なる。坂。と。折。り。り。り。や。ま。り。ん

はを中りくく火のつものいづれをわたりぬ。中消を連
集り火をけしむ。火のつものいづれをわたりぬ。中消を連
中く流るるをいづれをわたりぬ。中消を連
とつもの大板の流るる。流るるをいづれをわたりぬ
るや。家内おれおれをいづれをわたりぬ。中消を連
るく者よつるをいづれをわたりぬ。中消を連
十七八人着山をいづれをわたりぬ。中消を連
そよをいづれをわたりぬ。中消を連
りかぬをいづれをわたりぬ。中消を連

堀

運いふをいづれをわたりぬ。中消を連
りかぬをいづれをわたりぬ。中消を連
実殺しけしむ。中消を連
ゆりいしをいづれをわたりぬ。中消を連
面をいづれをわたりぬ。中消を連
船よりよりりかぬ。中消を連
便よりりかぬ。中消を連
大馬父子流るる。中消を連
とつもの大板の流るる。中消を連

沼下にて余を至と圍いまくそし所く修之地既より
 少く物を出してくくくくくくくくく控行是の少く
 中とく之弗城のこ甲門より不角を獲と玉造口
 名違是は鳥守及甲冒子て沼下と促入佐とたく
 赤楊口米倉丹後守殿至江戸の守留甲はれは
 大形堅候小具是くくく固ららし名小鞆くくを
 又んえくりり乃り

大陪車
八郎

大改て向大
山堂掛小



